

# 「きょうりゅうのまち」

稲田 光晟（いなだ こうせい）6歳

網干保育園（兵庫教区）

画面は黒色の線で大きく三つに分けられています。真ん中のエリアにはティラノザウルスを思わせる大きな恐竜が2匹、その足下にも別の種類の恐竜が小さく描かれています。さらに、空にはプテラノドンが飛び、まさに「きょうりゅうのまち」なのでしょう。左右のエリアにもそれぞれ特徴のある恐竜が描かれ、こうせいさんがとても恐竜に興味を持ち、また詳しく知っていることがわかります。

まず、主だった恐竜を、黒色の線で伸び伸びと描き、その上で、頭、胴、足の色や、太陽の円の部分と光彩の色などをそれぞれ丁寧に塗り分けて楽しみながら描いています。最上部に空を、基底線としての草原を描くなど6歳らしい空間の捉え方をしていますが、中央のティラノザウルスが重なりを持って描かれていることから、世界の捉え方や表現が、新たな発達のステージにさしかかっていることがわかります。

## ●表紙のことば●



おお はし いさお  
大橋 功

和歌山信愛大学